

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。 ※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。  
※本カタログの記載内容は2011年4月現在のものです。 ©2013 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.ALL rights reserved.

「奉行V ERP」の導入により人事労務のシステム統合を実現  
業務の無駄を排除し、  
大幅な効率化へ

奉行V ERP 導入モジュール

- ▶ 就業奉行V ERP
- ▶ 給与奉行V ERP
- ▶ 人事奉行V ERP
- ▶ 法定調書奉行V ERP
- ▶ 勤怠管理Web for 就業奉行V ERP
- ▶ BACKUPオプション
- ▶ 項目拡張 for 給与奉行V ERP
- ▶ タイムレコーダ

先商技術で未来を創る  
株式会社 オービックビジネスコンサルタント  
URL <http://www.obc.co.jp>

東京 〒163-6032 新宿区西新宿6-8-1住友不動産新宿オークタワー32F	TEL 03-3342-1880(代) FAX 03-3342-1874
札幌 〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル6F	TEL 011-221-8850(代) FAX 011-221-7310
仙台 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 鹿島広業ビル7F	TEL 022-215-7550(代) FAX 022-215-7558
関東 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F	TEL 048-657-3426(代) FAX 048-645-2424
横浜 〒220-0004 横浜市区北幸1-11-15 横浜STビル7F	TEL 045-322-0922(代) FAX 045-322-3648
静岡 〒420-0851 静岡市葵区黒金町11-7 三井生命静岡駅前ビル4F	TEL 054-254-5966(代) FAX 054-254-5933
金沢 〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス金沢8F	TEL 076-265-5411(代) FAX 076-265-7068
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-16-7 NORÉ伏見ビル7F	TEL 052-204-3350(代) FAX 052-204-3354
大阪 〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F	TEL 06-6367-1101(代) FAX 06-6367-1102
広島 〒730-0032 広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F	TEL 082-544-2430(代) FAX 082-541-2431
福岡 〒812-0039 福岡市博多区冷泉町2-1 博多紙園M-SQUARE 9F	TEL 092-263-6091(代) FAX 092-263-6099

販売代理店

先商技術で未来を創る  
株式会社 オービックビジネスコンサルタント

奉行V ERP 導入事例

# 株式会社池田模範堂

## 「奉行V ERP」の導入により人事労務のシステム統合を実現

# 業務の無駄を排除し、 大幅な効率化へ



課題

- ①従来からの紙ベースによる勤怠管理業務や通勤費計算への業務負荷が限界となっていた。
- ②業務プロセス単位の部分的なシステム化により、一部で経験を必要とする手作業が残っていた。

効果

- ①パッケージ機能をうまく活用することで、人事労務業務や就業規則を整備し、より高度な業務の標準化を実現した。
- ②勤怠管理から給与管理・人事管理にいたる人事労務業務について「奉行V ERP」による統合システム化を実現した。

▶ 導入前の課題と導入に至る経緯

勤怠業務の効率化と人事労務システムの統合を目指し、既存システムのリプレースを検討

虫さされ・かゆみ止め薬のトップブランド「ムヒ」で有名な株式会社池田模範堂は、2011年に創業100年を迎え、従来のブランドイメージを「ムヒ」から「MUHI」へと刷新。「肌を治すチカラ」を新たなコーポレートスローガンに掲げ、新しい分野への挑戦を始めている。

同社では2007年に「情報システム委員会」を発足し、部門や業務ごとに個別に最適化されているシステムを、全社的に統合整備していくための活動を開始した。その中で、基幹業務システムについても整備が行われることとなり、2009年、業務の課題が大きかった人事労務の分野から見直しが行われることとなった。

人事労務業務における課題は大きく2点あった。1点目は勤怠管理にかかる業務負荷が大きい点。そしてもう1点は、部分的なシステム化により、手作業による業務が残っている点であった。

当時、勤怠管理については、出勤簿や各種申請、打刻管理など、紙による管理が行われていた。さらに、業務を複雑にしていたのが通勤費の計算であった。同社は自動車通勤者が多く、通勤費は実費支給の方法を取っている。そのため、日々の通勤手段の記録を必要としており、勤怠の締

め日には出勤簿上での通勤費集計も必要となっていた。その頃の業務の状況について人事企画課の澤氏は次のように語る。

「有給休暇や休日出勤の申請、日々の残業時間の申請は全て紙の出勤簿で行っていました。勤怠の締日には、社員各自が電卓で計算した残業の合計時間を出勤簿へ記入し、上長が内容を確認します。記入間違いなどがありますので、最終的に人事企画課に提出されてくる全社員の出勤簿を、担当で手分けしてチェックを行う必要がありました。260名以上の社員がいますので、本当に大変な作業でした。勤怠と通勤費の締め作業には、大体6人で3日間を要していましたし、就業時間中には終わらないので残業も多くなっていました。」

システム面での課題について、情報システム委員会のメンバーでもある、総務経理課の横道氏は次のように語る。

「当社では、今まで業務プロセスごとに必要なシステムを導入してきました。これらのシステムは業務ごとに最適化されていますが、業務全体を見ると、システム間で連携するために、経験を必要とする手作業が数多く残っていました。10年以上前から、給与計算システムと人事情報管理システムが導入されていますが、給与計算には勤怠計算結果の手入力が必要でしたし、紙の出勤簿をデータとして管理しておくなど、非効率な業務も残っていました。」

企業の成長と共に社員数の拡大を続ける同社では、紙による管理が限界となり、人事労務業務全体を効率化できるシステム基盤が必要となっていた。このような背景の中、新たな人事労務システムを検討することとなった。

▶ 選定ポイント

人事労務業務全体を統合できるシステムを選択。パッケージでありながら顧客要望への柔軟さを持つ「奉行V ERP」を評価

システムの選定にあたっては、4社について細かな比較検討を行った。重要視するポイントのひとつとして、パッケージシステムにこだわったという。

「まずは、世の中のパッケージシステムは何ができるのかを知りたいという思いがありましたから、数多くのシステムをじっくり検討することにしました。手組みのシステムでは、自分たちのやりたいことはできませんが、自社のオリジナルのやり方を見直すことにはなりません。パッケージシステムを検討することで、世の中の標準的な業務、スタ



総務経理課 横道 達也氏



人事企画課 山村 みどり氏

■株式会社池田模範堂 (http://www.ikedamohando.co.jp/)

創業…1909年(明治42年) 売上高…125億円(2012年11月期)  
設立…1948年(昭和23年) 従業員数…278名(2013年4月現在)  
資本金…9,516万円 事業内容…医薬品の製造販売

虫さされ・かゆみ止め薬のトップブランド「ムヒ」で有名な株式会社池田模範堂は、人事労務について従来から続く業務の在り方を見直し、奉行V ERPの勤怠管理システム・給与計算システム・人事情報管理システムを導入。人事労務の各システムを統合したことで、業務全体の大幅な効率化を実現した。



「下らないやり方を知りたいと考えていました。」(横道氏)

約半年間をかけて検討を重ねた結果、同社は「奉行V ERP」の導入を決定。タイムレコーダ、勤怠管理ワークフロー、就業管理、給与管理、人事管理による、統合的な人事労務システムの構築を行うこととなった。

数あるシステムの中から「奉行V ERP」を選んだ理由について、横道氏は次のように語る。

「勤怠申請や打刻など、全社員が使ってもらうシステムとなりますので、まずは、使い勝手を重要視しました。また、奉行V ERPは人事労務の各システムがデータベース統合される点も決め手となりました。システム間のデータ連携がスムーズに行えます。その他、システム間での操作性が統一されていますので、担当者はいくつものシステム操作を覚える必要が無いというメリットもありました。」

中でも、パッケージでありながら、顧客の要件対応に柔軟なシステムである点に驚いたという。「奉行V ERPの機能について提案を受けている際、運用上、手間が発生しそうな点がありました。それを伝えると、「すぐに改善します」という回答が返ってきました。実際、導入時には機能改善がされており、要望通りの機能が搭載されていました。OBCはお客様の声を吸い上げてくれるメーカーであるとお聞きしていましたが、パッケージでありながら機能改善への柔軟性を持つ点にとっても驚かされました。このような機能の成長性に期待が持てる点は、大きな決定要素のひとつとなりました。」

▶ 導入効果と今後の展望

勤怠管理業務の効率化により、業務コストを大幅に削減

システムの導入設計段階では苦勞もあったが、システムベンダーの導入支援によりスムーズに導入を進めることができた。と語る。

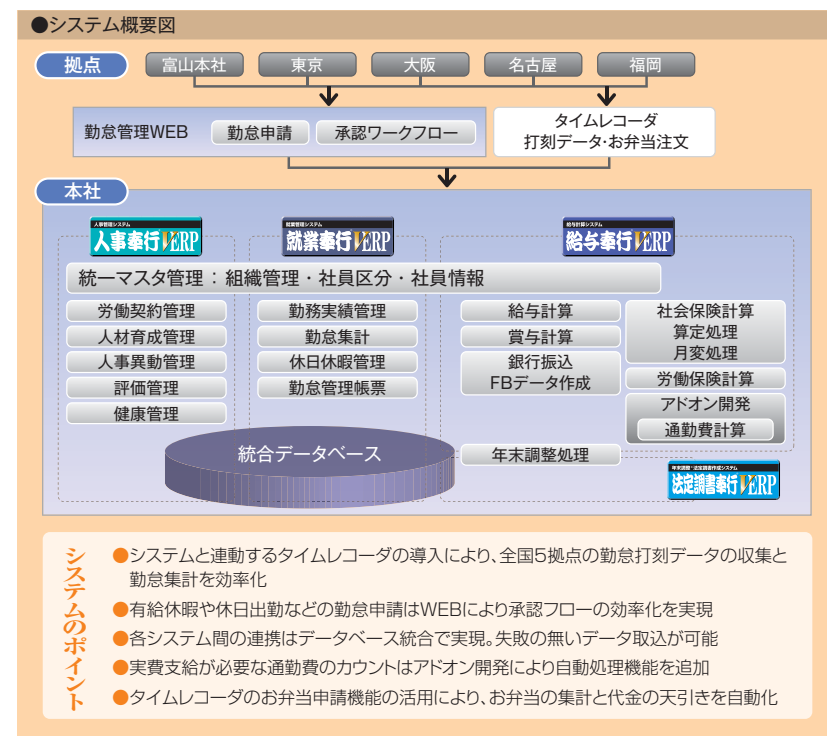
「勤務体系や申請・承認ワークフローなど、社内



人事企画課 澤 広子氏



人事企画課 石黒 久美子氏



のルールをシステムに表現したり、就業規則を見直しながら新しいルール化を進めていく過程は苦勞も多かったのですが、ベンダーの支援体制も素晴らしく、その都度相談を行いながら問題無く進めることができました。」(横道氏)

また、データ移行作業も、OBCサポートセンターやベンダーの支援も合わせ、自社内で運用を完結することができたという。実際に操作を担当されている人事企画課の石黒氏は奉行V ERPの機能性や操作性について次のように評価する。

「現在の部署に異動になる前は、パッケージシステムを一度もさわったことが無かったのですが、奉行V ERPは直ぐに使えましたので、その完成度の高さは素晴らしいと感じます。画面もきれいで、例えば社員の異動があった場合でも、顔写真で本人の確認を行いながら異動の操作を行うことができる、そんな使いやすさがあります。」

奉行V ERPの導入後、同社の課題であった勤怠管理業務は大幅に効率化を実現した。その効果について人事企画課係長の山村氏は次のように話す。

「勤怠集計については1日で業務が終わるようになり、作業時間が大幅に短縮されました。打刻の漏れが無いかの最終確認はしますが、集計についてはシステムが自動で行ってくれますので、集

計作業が一切必要なくなりました。この点については人事企画課での作業だけでなく、現場の作業負担も無くなりました。また、以前は出勤簿が手元に集まらなければ作業を開始できないため、チェック作業を一気に行う必要があり大変でしたが、今は都度確認することができ、作業が標準化されました。奉行V ERPを導入したことで、人手を掛けなくて済むようになりましたから、業務コストは確実に削減できています。」

奉行V ERPの導入を足掛かりに、社内のシステム化のさらなる推進へ

奉行V ERPの導入により、人事労務業務の基盤構築を実現した同社。最後に、今後の同社のシステムの展望について横道氏にお聞きした。

「今回、システムの導入に合わせ、就業規則の見直しと整備を行ったことで、社内へ就業規則を周知徹底する良い機会となりました。また、勤怠管理WEBの導入は、社員全員がPCを使用する足がかりとなったことも、大きな効果のひとつとなりました。全社員がPCを使える環境を構築できたことで、社内のシステム化を推進する基礎を作ることができました。今後は、ワークフローに様々な申請を反映させながら、紙ベースの業務を削減していきたいと考えています。」 (以上)